

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果市町村受理日	平成25年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300015-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①元気なころの生活に近ずき、入居者同士があちらこちらで「ちょっと立ち話」して過ごせる様な環境づくりに努めています。</p> <p>②掃除や芋の皮むき、山菜の処理などを行いながら、穏やかに1日を過ぎて頂けるよう支援します。</p> <p>③自然に恵まれた環境の中で、自分たちの作った新鮮な野菜や山菜で作った食事を頂き、家庭的な生活を過ごして頂けるよう支援します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、自然豊かな立地環境に恵まれている。春は豊富な山菜が採れ、自家栽培での収穫物に加え、近隣からも新鮮な野菜類が頻りに届いている。それらを利用者と一緒に、調理したり、漬物に加工して、豊かな食卓を潤している。調理専任職員の美味な味付けに感激し、毎回、完食が常態化している。さらに、満たされた食生活の成果は、利用者・職員ともに、今年度の「風邪ひき」ゼロを達成している。管理者・職員は、利用者の家庭的な生活を支え、満足して楽しく過ごせるように、日々実践をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく余生を過ごしたい」「やりたいことをわがままと捉えずサポートしたい」という理念の基に利用者が暮らしてきた生活の延長の場に少しでも近づき自分らしく生活して頂けるよう、職員が日々取り組んでいる	管理者・職員は、山間の自然豊かな環境の中で「楽しく余生を過ごせるように」の理念を共有し、支援をしている。利用者が、培ってきた自分らしい生活が継続できるように、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や小学校の行事に参加したり、家族会には近隣の方々にも参加をお願いして交流をはかっている。災害時には地域との協力体制も構築されており ホーム周りの草刈りや雪かきなどを近隣の方にして頂くなどのつながりもできている。	地域の行事に参加したり、災害時は、近隣との協力体制ができている。また、周辺の草刈や機械による除雪などを引き受けてもらっている。近所の人達が頻繁に訪れ、過分な野菜や果物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、ご家族や見学に見えた方の不安や心配事を聞き、認知症について理解して頂ける時間を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中の1回は全家族に出席をお願いし、入居者と家族、行政、民生委員、近隣住民の方々にサービスの状況や評価への取り組み状況等について報告している。又、食事会も行い日ごろの生活を理解して頂く場になっている。	会議は定期的に関き、利用者や近隣住民も参加している。サービス評価の取り組みを報告し、意見を交わしている。利用者のヒヤリハット対策や精神的な安定度を評価・検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修、交流会には積極的に参加し連携体制の足掛かりとしている。推進会議に参加して頂き、その時々得た情報を得、指導を受けている。	行政主催の研修や交流会、ケアマネジャー会議に参加している。市の担当者へは、運営の実情を伝え、課題があれば、随時、相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束をしないケア』の学習会を行い、その実践に取り込んでいる。一人ひとりの思いを聞き、できるだけ叶えるようにしている。一人で出ていく場合は、必ず職員が見守り同行をし、安全への配慮をしている。	拘束や虐待をしないケアを行っている。定期的な勉強会で、拘束の具体例を学んでいる。戸外に出たい人は、思いに寄り添い、見守り同行をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、内部研修や職員間の情報交換を密に取りながら、言葉使いや行動に注意して取り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修や外部研修を重ね、「本人の尊重」「利用者本位」「自立支援」といった基本理念を守るため勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改定時には、本社より再契約確認をしている。新規契約時には個々の消耗品の支払い方法等、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、ご家族のアンケート、ご家族の訪問時などにご意見を聞かせていただき運営や支援に活かされる様努力している。	家族の訪問時や家族会などの機会に、意見や要望を聴いている。また、家族アンケートも実施している。認知症の進行や病気の心配などの意見があり、対応や支援状況を説明し、理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日のミニミーティング・月1回行っている月例ミーティングを重ね、職員の声として代表に伝えて、早急に話し合い職員全員が同じ方向を目指す姿勢で取り込んでいる。	管理者は、月例の職員会議で話し合い、その結果を代表者に報告している。ケアの改善策や職員のレベルアップの提案があり、運営に反映させている。さらに、利用者同士で、気楽に立ち話ができるような関係づくりを模索している。	利用者が孤立しないように、仲間意識を持ち、近所づきあいのような関係づくりに期待したい。また、相性を見極め、普段に立ち話が聞こえるような場面づくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミーティングや月例ミーティングで職員の思い・考え・意見の交換をし定期的に訪れる代表に伝えて、早急に話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを目指し、勉強会への参加や資格取得の必要経費も認めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、地域のケアマネが集まって行うケアマネ会議への参加等、同業者と交流する機会を作り、サービスの質を上げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やアセスメントで本人や家族と接しながら気持ちや思いを受け止め一緒に過ごす時間を多くし、信頼しあえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安を聞き取り、要望を受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に今何が必要かを聞き取り、共に対応していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、畑仕事、調理の下準備を職員と一緒にいき、共に暮らしていると感じる生活作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り、電話、施設を訪問された時などに、日々の様子を家族に伝え、情報を共有して、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市で運営している路線バスを利用して、地域の行事に参加している。又、地元のタクシー会社の協力を得て馴染みの場所に出かけ、地域とのつながりを持つようにしている。	市営の路線バスやタクシーを利用し、馴染みの場所へ出かけている。地元小学校の運動会や三寺詣りへ出かけ、懐かしい思いに触れている。また、馴染みの美容師が、カットに訪れるのを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食堂での席を替えたり、いこいの広場を作り、語らいの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、困らないよう日々のホームでの情報を伝え、本人や支援者が戸惑わないよう支援している。又、いつでも相談して頂けるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	もてなしの心を大切にして、穏やかな日々を過ごして頂けるよう、毎日行っているミニミーティングで職員が日々の一人ひとりの行動、言動、表情から得た思いを共有し把握に努めている。毎日書いていただく日記の内容からも思いを推測している。	個々の言動や表情から、思いや意向を把握している。また、日記を書いてもらい、思いを汲んでいる。把握した思いは、その人らしい暮らしが継続できるように、活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やケアマネさんより入居前の生活環境、生き立ちなど、聞き取りを行っている。入居後も会話の中からや、面会に見えた方から情報を頂きサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活スタイル、職員との会話や心身状態を介護記録に残すことで職員間で情報を共有し把握できるようにしている。又、ほぼ毎日行っているミニミーティングでも情報を伝え合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を聞き、家族、協力医、看護職員、介護士の意見を反映し、現状に即した介護計画の作成にあたっている。夜勤、日勤ともに意見が活かせる様、申し送りや記録のやり取りで介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や申し送りノートを基に、意見を出し合い、計画に反映させている。さらに、本人・家族、関係者から意見を聴き、排泄の自立や健康を維持し、当たり前暮らしさせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日課表を毎日、午前・午後・夜間と記録し、職員間で情報を共有したうえで日々のミーティング等で意見交換し日頃のケアに活かし、また介護計画にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにそった支援(散歩・畑仕事・山菜取り等)を心がけている。利用者に沿った柔軟な支援を臨機応変に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の防災訓練に参加したり、倉庫として建物の一部を提供している。地元の運動会にも積極的に参加して楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医に受診している。受診の際には適切な医療を受けられるよう日々の様子を手紙にして預けるなどの支援している。又、月2回協力医による往診があり全員の利用者が受診している。	個々に、これまでのかかりつけ医で、定期受診を行っている。協力医による月に2回の往診があり、全員が受診している。受診の際は、本人の生活記録や健康状態を、担当医に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中には看護師がおり、常に介護士と情報を交換し、入居者の状況を把握している。個々の健康状態を管理し、異常時には、家族や医療機関と連絡を取り適切な対処ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、家族と常に情報交換に努め、状態の把握に努めている。地域の連携室との関係を持ち退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは看取りや重度化の対応を行わない方針を示しており、入居時点で家族に説明している。医療行為が必要になった時は医療機関の相談室とも連携し、家族と話し合っている。できるだけ利用者が重度化にならないよう、日々、生活の中にリハビリ要素を取り入れた支援に努めている。	重度化や終末期の対応は、ホームで暮らせる限界までとし、入居時に家族に説明している。医療行為が生じた場合は、医療機関へ入院できるように連携している。また、入居契約と同時に、特別養護老人ホームへの入所申し込みを済ませている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、マニュアルを基に、日々訓練を行っている。訓練を生かせる様、今後も勉強会を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、夜間を想定した避難訓練や土砂災害を想定した避難訓練を行っている。年1回委託業者による消防用設備点検も行っている。	夜間を想定し、避難誘導や通報訓練を行っている。ホーム前のグラウンドにタオルを口に当てて避難している。地域住民や近くの職員が駆けつける体制があり、備蓄も十分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを守るため、日々、内部研修、外部研修を行い職員の意識を高め対応している。	一人ひとりのできることを支え、自主性を尊重している。言葉かけは、笑顔でゆっくり語りかけ、安心できるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントを行い、本人の思いを知り、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に余裕を持ち、プライドを傷つけないで一人ひとりが思うように過ごせる様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を部屋に準備して頂き、その中から自分の好みのものを選んで頂く様にしている。理・美容も本人の意思を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝、昼と夜の献立を順番に書き食堂に張り出して楽しむ。自分たちで収穫した野菜や、地域の人からの差し入れ、職員の畑で採れた野菜などの食材を活用し、準備からかたづけまで、職員と一緒にいる。誰一人残すことなく、完食している。	自前で栽培した野菜や近隣からの差し入れ、職員からも野菜が届いている。旬の食材として調理し、利用者の食欲を満たしている。職員も一緒に食事をし、「美味しい」と、笑顔で言葉をかけ合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を把握し、体重管理を行い、栄養状態を見る目安にしている。又、水分補給にも気を配り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに応じた声掛け・見守りを行い、口腔内の清潔に努めている。洗面用具の消毒も日を決めて行っている。		

岐阜県 しましまハウス 河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレに誘導している。トイレでも利用者のできる事を促す声掛けを行い、自立支援に取り組んでいる。個々の状況に合わせ、パットの種類を使い分け、動きを妨げない工夫をしている。	一人ひとりの排泄リズムやサインを察知し、トイレに誘導している。個々の頻度や量に合うパッドを選択し、負担を軽減している。多くの人は、自立度が高く、持続できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の勉強会を行い、予防に取り組んでいる。前日の排便状態を把握し水分摂取の回数を多くしたり、戸外で過ごした後は摂取する様気を付けている。又、食事内容の工夫をし、体操・歩行などで体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どの職員が担当しても、一人ひとりの好みに合わせた湯温や支援方法が取れるよう、情報を共有している。	入浴は週に2回、午前と午後に日分けをしている。大きな浴槽であるが、可変の手すりを備え、安全に入浴ができています。体調の変化や汚れた場合は、シャワー浴で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整し、何時でも休めるようにしている。談話室のソファに座布団を敷き、昼寝ができる様になっている。部屋には馴染みのものを置き、安心して過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の誤薬が無いよう、名前、用法、日付を記入し、1包ずつ確認のうえ、職員が配薬し介助している。症状が変化したときは、看護師を通して主治医の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物かたづけ、料理の下準備等、役割を持ち張り合いのある生活が過ごせる様支援している。誕生会や、1年に3~4回車で外出するお食事会なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の外出希望時は、職員が必ず付き添い、個々の状態にあった支援を行っている。	ホーム前のグラウンドに出て散歩している。要所に長椅子を備え、外気浴と会話を楽しんでいる。今年度は、小学校の運動会や伝統の古川祭り、三寺詣でに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際は家族の同意のもとに使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各家庭の状況を考慮しながら、手紙・電話・ファックス等を利用し、家族・兄弟・姉妹・との交流ができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く開放的で、季節の花をあちこちに飾っている。見やすいカレンダーを掲示し、季節ごとに共同作品を作り掲示して日々の話題にしている。食堂ホール・憩いの場等、くつろげる場を設け、団らんでできる場を設けている。	玄関が広く、かつて校舎であった名残がある。要所に観葉植物や生け花を飾り、季節感が出ている。ホールや廊下には、手づくりの貼り絵や塗り絵、生活ぶりの写真集があり、くつろげる共用の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のあちこちらに、独りになれたり、利用者同士で思い思いに過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には、本人の馴染みのものを置き、落ち着いて生活できる場になっている。毎朝、個々が自室の掃除をして、清潔で明るい部屋にして自分の居場所と意識して頂けるよう支援している。	居室には、鏡台、収納ケース、椅子、テレビなど、馴染みのものを置いている。表札は職員の手づくりで、暖簾は家族の提供である。部屋の掃除は本人の日課とし、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの日々の様子を職員が把握し、共通した見守りや声掛けをしている。各部屋や便所には目印を貼り、迷わないよう工夫している。		